

肥後橋駅(地下鉄四つ橋線)②

いまはなき西横堀川を偲んで

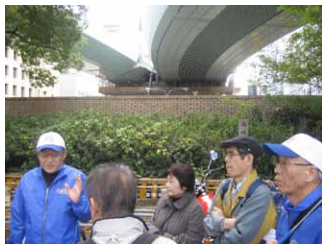
渡辺橋駅(京阪中之島線) 本町駅(地下鉄御堂筋線・四つ橋線・中央線)

「大阪あそ歩マップ集」
その3 No.118

地下鉄肥後橋駅

①西横堀川跡碑

- 永瀬七郎右衛門(肥後出身の材木商)に開削されたので当初は七郎右衛門堀と呼ばれました。
- 西横堀川に架かっていた西国橋(現・土佐堀通)西詰には鴻池、三井と並び称せられた両替商・加島屋久右衛門の店舗があり、加島屋は明治・大正期には広岡財閥となって加島銀行を設立、現在の大同生命につながります。



②阪神高速開通記念碑

- 昭和37年(1962)に阪神高速道路公団が発足。そのころ、すでに船も通らずドブ川と化していた西横堀川を埋め立て、昭和42年(1967)に阪神高速1号環状線が全線開通しました。記念碑は阪神高速道路公団創立20周年を記念して建てられたものです。

③梅花社跡

- 篠崎三島(1737~1813)は、伊予から大坂に出て、玉水町で紙屋と両替屋をしていましたが、のちに儒者となり、安永5年(1776)に私塾・梅花社を開きました。その養子となった篠崎小竹(1781~1851)は詩書に優れ、揮毫依頼が絶えず、潤筆料で年に6~7万両も稼いだので、「儒者の鴻池」と呼ばれ、門下生は1500名を擁したといわれます。

④筋違橋

- 高麗橋筋から江戸堀川南岸へ筋違いに斜めに架けられた橋を筋違橋といわれます。また筋違橋を渡って、すぐの所に大坂名物「すし萬」があったので、筋違橋は「すしかい橋」(鮨を買いに行く橋)でもありました。



⑤呉服橋

- 秀吉の大坂築城で伏見の呉服商人が玉造に居住させられ、彼らは元禄時代には現在の伏見町に移転し、伏見呉服町と称しました。呉服町は各店で暖簾の色が

- 異なり、「呉服町の五色暖簾」として有名だったといわれます。呉服橋はその呉服町につながる橋です。戎橋、大黒橋と呉服(五福)橋を合わせて「七福神の橋」と洒落たといわれます。

⑥信濃橋

- もとは富田町橋、のちに問橋と名前を変え、元禄年間(1688~1704)の記録には信濃橋の名が見えます。

⑦火防陶器神社

- 信濃橋西詰の瀬戸物町に祀られていた火除地蔵は、甲冑をつけて馬に乗っているめずらしい地蔵でした。毎年7月24日の地蔵会は浪華名物のひとつで、この地蔵会目当ての人々を相手に陶器商らが大量売り出しを行ったといわれます。しかし明治時代の神仏分離で火除秋葉神社となり、その後、陶器神社と改名して、明治40年(1907)に坐摩神社に合祀されました。

地下鉄本町駅

